

附錄

十月十日

南西諸島對空戰鬥要報之三戰訓事項

一、戦闘經過ノ概要

本部各隊ハ十月八日丙辰戰備下令ト共ニ戰鬥準備ニ萬全
ヲ期シ銳意警戒ヲ嚴ニシアリシ處十月十日〇ス五〇左ノ情報
ヲ受ケタリ首里陣地ヨリ方向ニ〇度距離四五料反射尺本部
情報室ニ於テハ直ニ敵機ト判定シ軍司令部ニ報告スルト共ニ部
隊長ニ報告〇ス〇〇ヨリ警戒中止中ナリシ安武隊ニ警戒ヲ開
始セシム。

讀谷山警戒機ニ直チニ警戒ヲ開始シ〇ス五七一一三〇度一五〇料
地點ニ敵ラシキ反射ヲ感ジ爾後九〇度一一八〇度之間ニ十數方
向ヨリ分進スル敵編隊ヲ捕捉ス。同時刻北飛行場ハ早クモ敵
機ノ攻撃ヲ受ケツアリ

〇七〇〇南西諸島全地區ニ對シテ空襲警戒報發令ナリ
當時天候北東ヨリ微風アリ晴天ニシテ雲高一五〇〇一〇〇〇
ノ斷雲點在シ視界極メテ良好ナリ

警戒機又態度良好各隊ト有線連絡又奄美大島ト無線
連絡又良好ニシテ時々刻々敵機ノ行動ヲ捕捉傳達ス
〇八五四―〇九四五ノ間約十二梯團以上ノ敵編隊ハ那覇基地
一五〇度方向ヨリ逐次進入ス同時頃九〇度一〇〇度方向ヨリモ
各一編隊進入ス

第一次來襲編隊ハ概ネ一四〇―一五〇度方向ニ退去中

一二五三ヨリ一二〇〇前後敵ハ大編隊首里一四〇度二〇〇度附近
ニ表レ近接中ニ〇分後那覇ニ進入ノ模様同時ハ〇度九〇
度二〇〇度一八〇度方向ヨリモ各一編隊進入中

一三二〇伊江島上空敵三編隊アリ伊江島炎焼中

一三三〇敵ハ三八度一〇〇度一〇〇度二〇〇度三三〇度一一〇

度ニ接近ス

讀谷警戒機ハ發電機加熱ノ爲一三四〇警戒ヲ中止ス

一三四〇頃讀谷ト有線連絡断絶ス

直チニ無線分隊ヲシテ連絡ヲ開始セシメ一三五五連絡ヲ完
了ス感度良好

一五〇五那覇上空大編隊攻撃中

同時頃無線連絡漸ク悪ク奄美大島又讀谷トノ連絡モ又

円滑ニ缺ギヤリ

軍情報室トノ連絡モ不良トナリ一部兵力ヲ以テ軍情報室
トノ連絡ヲ實施セシム

一六〇〇敵機大部分退去シ那覇朝小録上空ニ炎々タル火
災ヲ望見ス

一七〇〇敵編隊再ビ一八〇度方向ヨリ近接スルモ本島南端
附近海上ヲ施回スルニシテ本島ニ進入スルニ至ラズ

一八五〇頃迄飛行ヲ續ケ南方ニ去ル

部隊ハ敵機來襲ノ間隙ヲ利用シ隊勢ヲ整理シ敵ノ次
期來襲ニ備フル爲無線分隊ヲ分散配置シ情報空ヲ
壕内ニ移轉セリ

二〇四〇 空襲警報解除

敵ノ兵クハ總テ艦載機ニシテカーチスヘルダイトー及ダグラス
SBO 艦上攻撃兼急降下爆撃機並ニグラマン艦上戰
斗機ヲ主体トシ約五次ニ亘リ延八百機ヲ以テ來襲セリ
敵機ハ高々度ヲ以テ断雲ヲ縫ヒ目的地上空ニ進入セル後目
標上空ニ於テ急降下爆撃ヲ實施セリ爆撃精度其他
概不良好ニシテ急降下モ又見ルベキモノアリ
急降下ニ際シ一斉ニ大型一發小型三―四發ノ爆彈ヲ

同時ニ投下セリ又投下ニ際シ發射白煙ヲ認ムモノアリ
ロケット彈ヲ使用セルモノトモ思考セラル

急降下後ハ地上ニ對シ二十挺又ハ十三挺機銃ヲ以テ銃撃ヲ
實施セリ

又第四次以降ニ投下セル燒夷彈ハ六角形燒夷筒ニシテ
三十四發ヲ以テ一組トシアリ

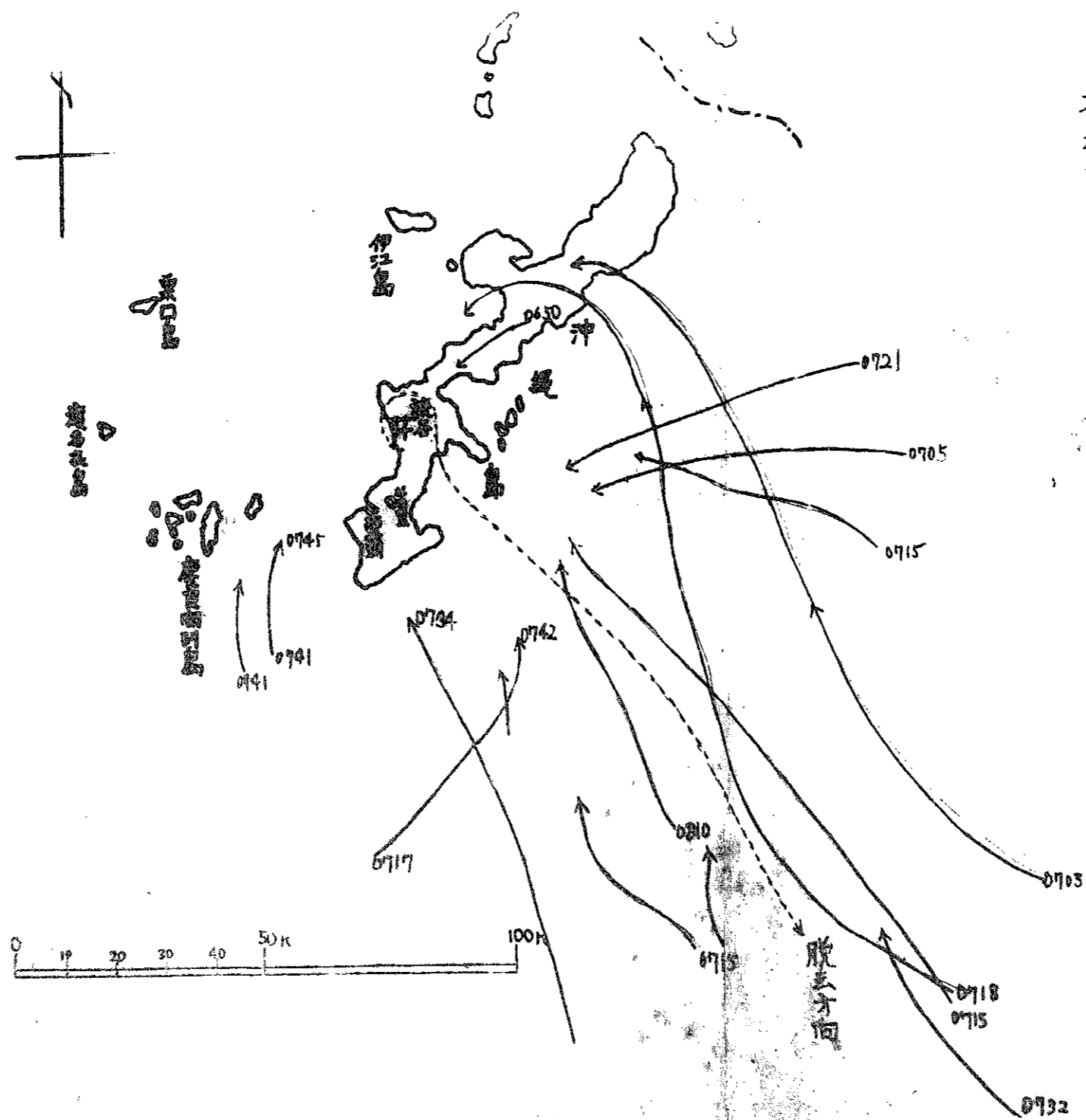
敵ハ我ガ警戒機及標定機ニ對スル電波妨害ノ爲ニ片面
又ハ両面ニ錫ヲ塗布セル紙片ヲ散布セリ

巾五挺 長ナ 五〇種
巾七挺 長ナ 七〇種

・二種ニシテ箱ハC A F A 一〇ニ七〇(二〇〇)ト記入シアリ
警戒機ニ對スル妨害ハ飛行機及射ト類似反射ヲ生ズル
モ移動性ナク又飛行反射トハ異ルヲ以テ容易ニ判定出來
識別ニ何等支障ナシ

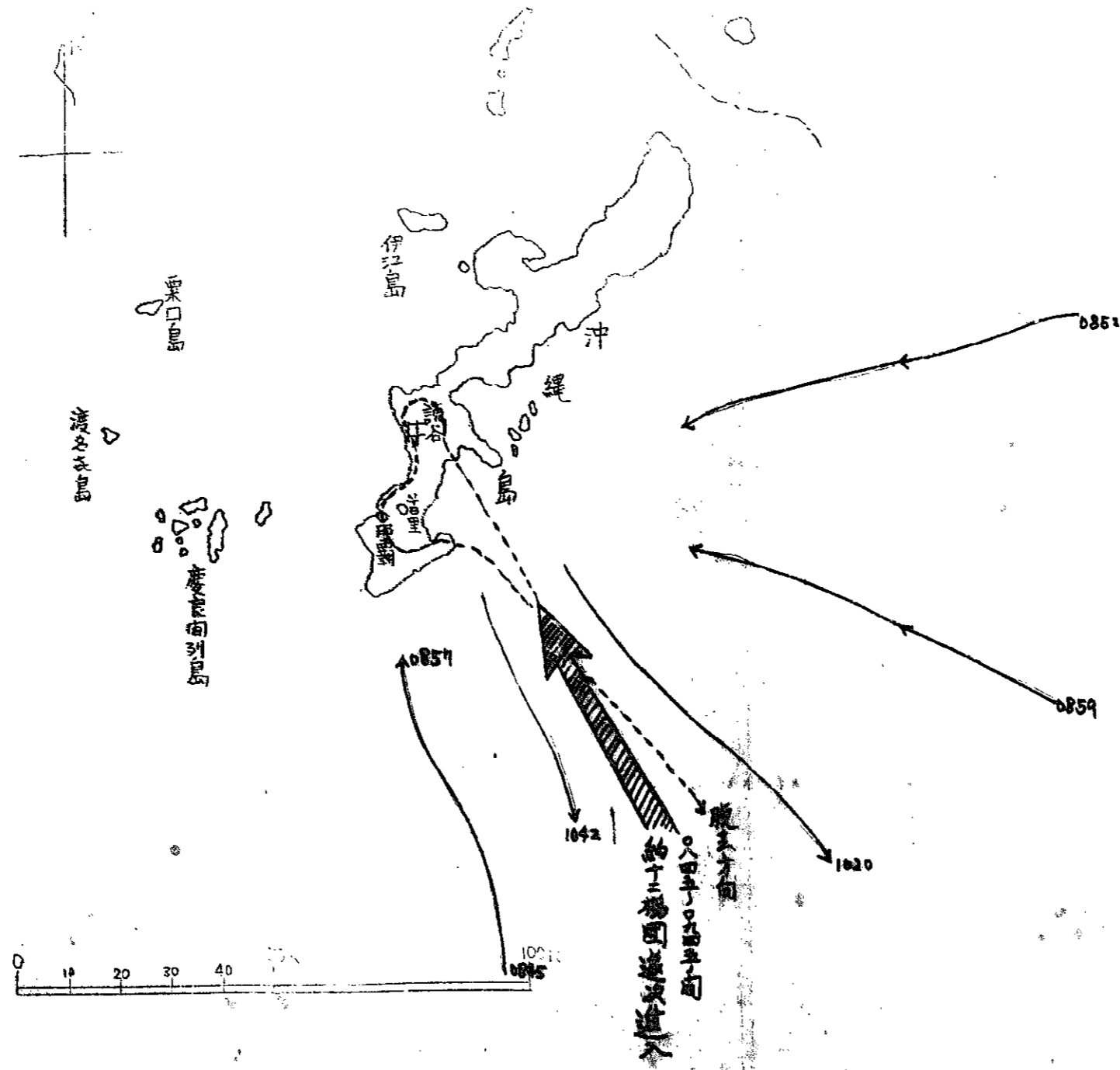
敵機來襲主要航跡要圖
(第一次)

敵八九〇度ヨリ一八〇度ノ間十数方向ヨリ分進シ主トシテ北飛行場ヲ
攻撃ス。



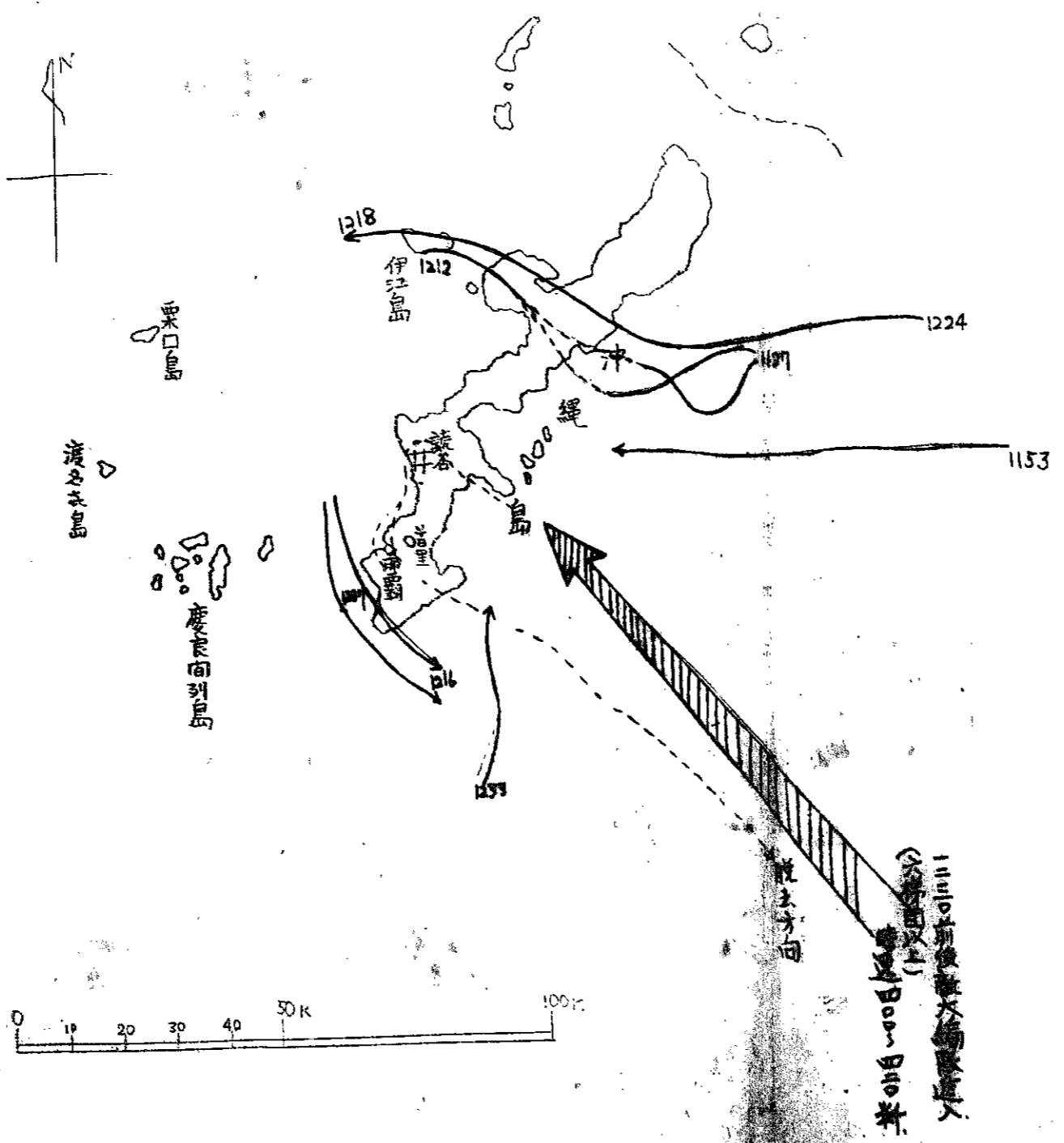
敵機來襲主要航跡要圖
(第二次)

敵機大部分百五拾度方向ヨリ直路進入



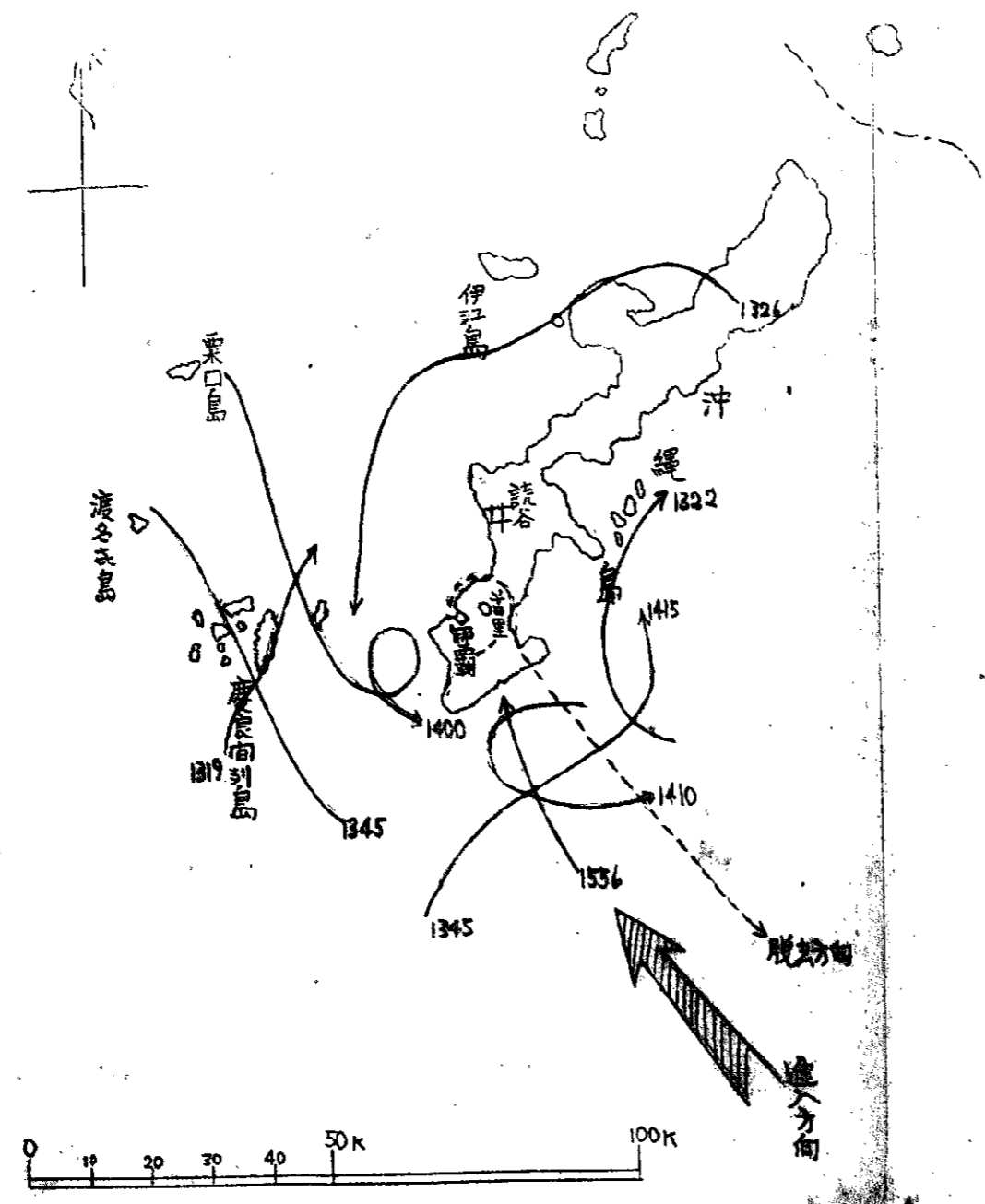
敵機來襲主要航跡要圖
(第三次)

敵主攻目標 那霸港灣施設 在港船舶



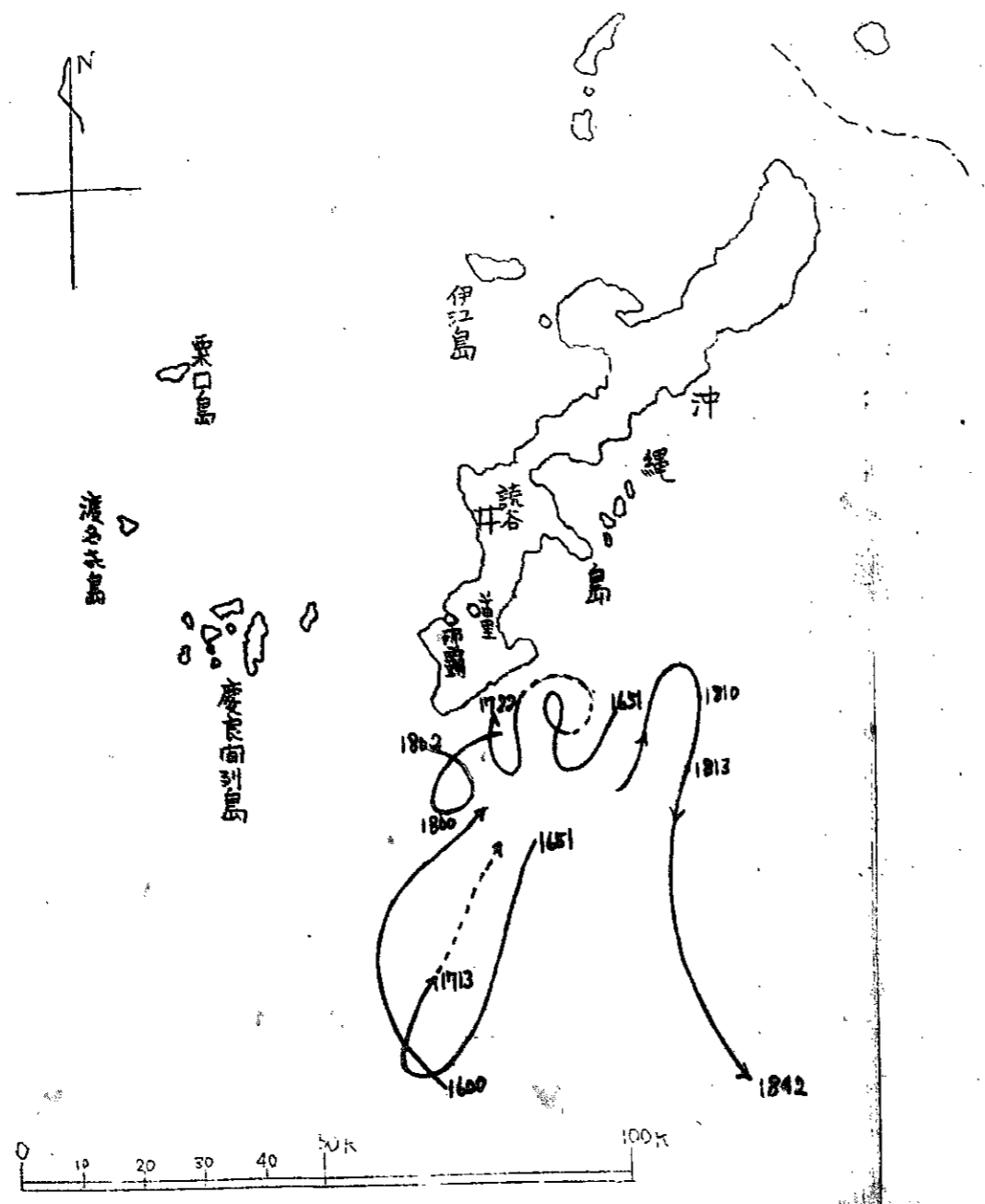
敵機來襲主要航跡要圖
 (第四五次)

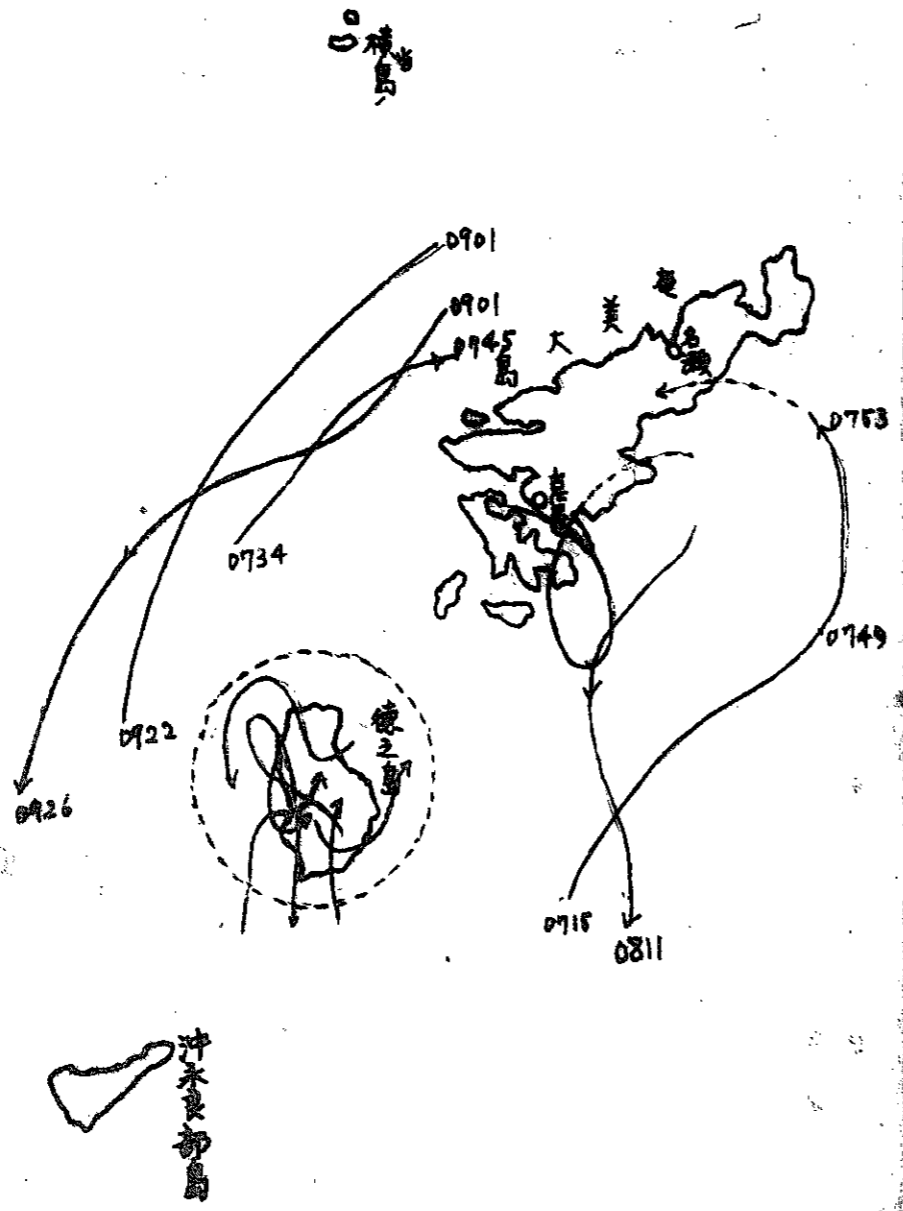
敵主攻目標八那霸市街



敵機來襲主要航跡要圖
(第五 次)以降

敵ハ夕刻ヨリ日没迄沖繩島南端ニテ偵察飛行ヲ實施シアルモノ
如シ。



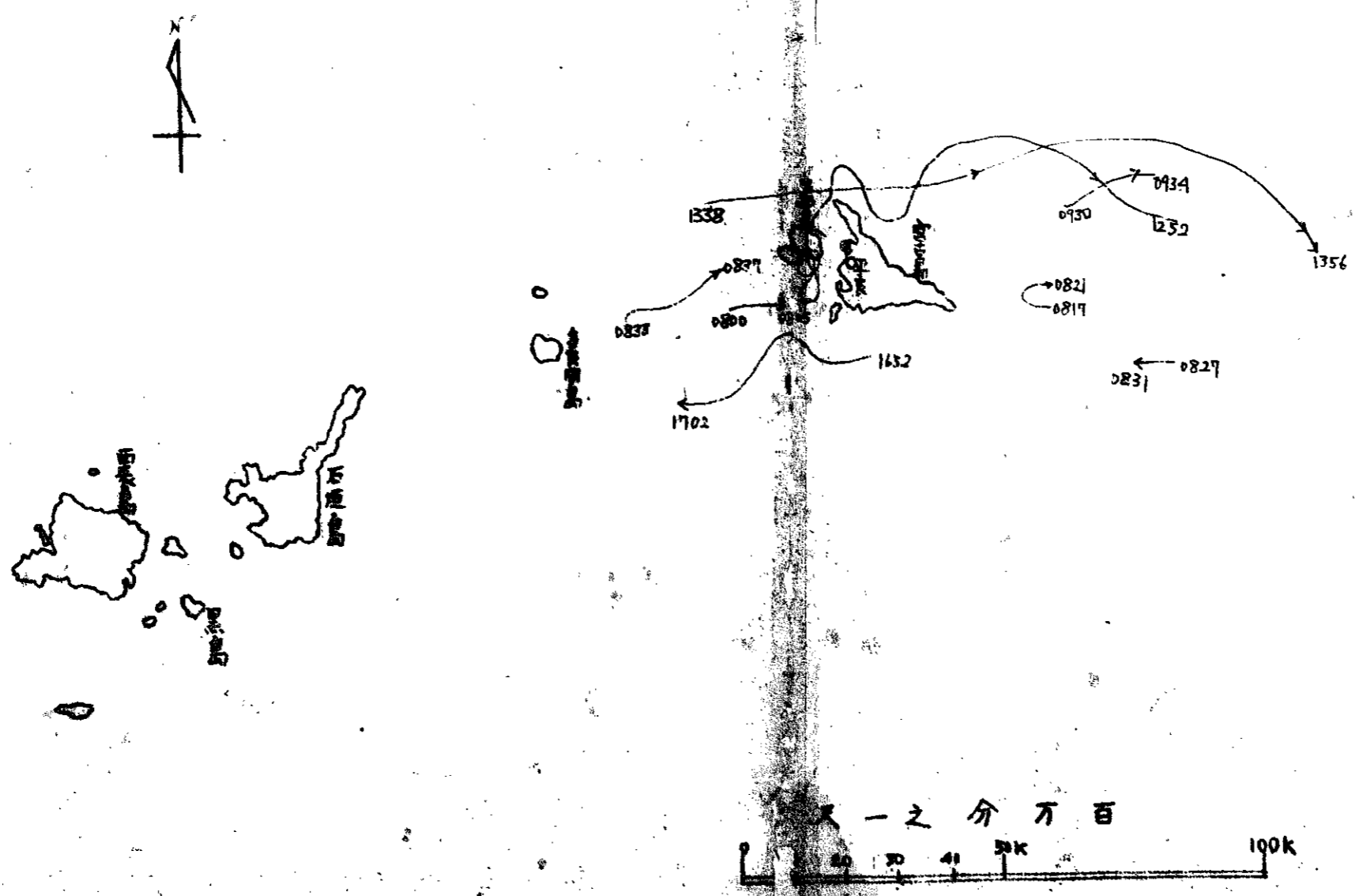


敵機未襲時主要航跡要圖

尺 之 分 万 百



宮古島警戒機捕捉航跡圖



圖要跡航捉捕機戒警東大南

